



遺族同士と交流 これからも

御菅地区・御藏北公園

128人が亡くなった神戸市長田区の御菅地区にある御藏北公園では、東日本大震災（2011年）の津波で長男健太さん（当時25歳）を亡くした田村孝行さん（65）＝宮城県大崎市＝が、阪神大震災の犠牲者を慰靈した。

健太さんは同県女川町の七十七銀行女川支店に勤務中、支店長の指示で2階建ての屋上に同僚と避難し、津波にのまれた。20年、田村さんと妻弘美さん（63）は一般社団法人「健太いのちの教室」を設立。企業の防災意識向上を呼び掛ける語り部をしながら、全国の大災害や大事故の遺族と交流している。

地震のあった午前5時46分、田村さんは遺族や住民とともに黙とうした。読経のあと、僧侶が震災犠牲者の名前を一人一人読み上げ、最後に健太さんの名前も読み上げられた。

田村さんは「神戸の人たちとつながっていることが、どれだけ勇気づ

けられたことか。これからも共に安全な社会の構築を目指したい」と話した。

阪神大震災で倒壊家屋の下敷きになった母秀子さん（当時76歳）を亡くした魚住哲也さん（84）も、慰靈碑に手を合わせた。

31年前、母を助け出そうとした矢先、「隣のおばさんを助けたって」という声を聞き、幼なじみの母親の救出に回った。「今度こそお袋を助け出そう」と自宅に戻ってがれきを必死にかき分けたが、炎が迫ってきた。「おかあちゃん、ごめん」。燃える家を背にした。自責の思いが今も消えない。

魚住さんは「『おかあちゃん、家族4人残してくれてありがとう。みんな元気で仲良く暮らしているで』と報告しました。お袋の分まで生かしてもらっています」と静かに語った。

【桜井由紀治】